

Hokkaido Nougyou Doboku  
Sokuryou Sekkei Kyoukai Jihou

# 農土測協時報



カササギ 飯田 直男





## 講話

## ～令和5年度通常総会より～

北海道農政部 技監 大西 峰 隆



ただ今、ご紹介いただきました、北海道農政部技監の大西でございます。

本日は、「北海道農業土木測量設計協会 令和5年度 通常総会」がこのように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

また、橋本会長をはじめ、会員の皆様には、日頃から農業農村整備事業の円滑な推進にご協力いただいていることに対し、厚くお礼申し上げます。

昨年、道内では、6月から8月にかけて、各地で大雨や集中豪雨が発生し、オホーツクや檜山、留萌など、10の振興局管内において、数多くの農地・農業用施設が被害を受けました。

本日お集まりの皆様には、被災した農業用施設などの復旧にあたり、短期間での調査設計業務をはじめ、災害査定への協力など、多大なご尽力を頂き、おかげをもちまして、今年の営農に支障とならないよう復旧工事を進めることができました。

あらためて、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、昨年来のエネルギーや原材料等の価格高騰などにより、国内経済や国民の生活への影響が、今もなお続いておりますが、農業分野においても燃油や肥料、飼料、電気料金といった農業生産に欠かすことの出来ない生産資材等の価格が高騰するなど大変厳しい経営環境が続いています。

こうした中、本道農業に目を向けますと、農家戸数の減少や農業者の高齢化、国際化の進展、農業水利施設等の老朽化のほか、頻発・激甚化する自然災害など、多くの課題に直面しています。

こうした課題に的確に対応するためには、スマート農業や高収益作物の導入を容易にするほ場の大区画化や排水対策、自然災害に備える防災・減災対策など、本道農業の礎となる農業農村整備を計画的かつ着実に進めていくことが重要と考えています。

そのためには、予算の確保が何よりも重要となりますが、令和5年度の農業農村整備予算は、農業の競争力向上に必要なTPP等対策や食料安全保障に関する補正予算が計上されたほか、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等が措置されており、北海道補助事業については、当初と補正を合わせた総額として、前年度並みの500億円を超える額を確保できる見込みで、調査・設計等の委託費についても、概ね前年度並みの金額を確保することができたとされており、道としては、この予算を適切に活用し、工事や委託業務の早期発注を行い、事業の円滑な執行に努めてまいります。



次に新規採択についてですが、令和となって以降、新規採択は、600億円前後の規模で推移していましたが、令和5年度は約800億が採択され、来年度以降も整備要望は増加する見通しとなっております。

しかしながら、地元からの整備要望は、振興局や事業によって年度間のバラツキが見られることから、道では、振興局ごとに、今後30年間の整備時期を想定した「整備カレンダー」を作成し、地域整備構想の検討の際などに活用するとともに、振興局の計画・実施・用地部門が連携を強化し、早期の地元支援や事業計画の進捗管理を行うなどして、中長期にわたる、計画的な新規採択や事業量の平準化に努めてまいりますので、引き続き、調査設計や計画策定などの委託業務に対し皆様方のお力添えを、お願いします。

次に、働き方改革への対応についてですが、働き方改革関連法の施行により、労働環境の改善が求められる中、委託成果品の品質を確保するためには、一層の業務の効率化を進める必要があるため、道では、令和元年度に策定した「働き方改革に対応した業務改善プログラム」の中で示している真に必要な委託業務成果品の明確化の取組として、昨年度、図面の名称や記載内容を統一したほ場整備の標準設計図を策定したところであり、本年度は、畑地整備や草地整備の標準設計図の策定に向けた検討を進めるとともに、コンクリート構造物に関する設計の省力化に向け、車両による運搬が可能なコンクリート構造物を原則プレキャスト化するために必要な事例を収集し、平成29年に作成した「コンクリート製品の取扱の手引き」の改正に向けた検討を行うこととしております。

今後も、皆様方からのご意見も伺いながら一層の業務改善に向け、取組を進めてまいります。

また、道では、今後、全道126か所の防災重点農業用ため池のうち、防災工事が必要と判断した34箇所について令和12年度までに工事を実施することとしておりますが、こうした防災工事を計画的・効果的に進めるため、ため池の調査・設計から施工に係る事例や留意点などをとりまとめた「農業用ため池整備事業実施に関する手引書」を作成し、7月頃にホームページに掲載することとしておりますので、こうしたものも活用いただきながら技術力や経験が必要とされている農業用ため池に関する計画策定や調査設計業務につきましても、協会及び会員の皆様のお力添えをよろしくお願いします。

結びになりますが、昨年は、米をはじめ農作物全体として、総じて良好な作柄となりました。

本年度におきましても、大きな災害が発生することなく、皆様とともに豊穰の秋を迎えられますことを心からお祈り申し上げますとともに、北海道農業土木測量設計協会そして会員企業の益々のご発展と、本日ご参会の皆様のご健勝を祈念申し上げます。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。



## 令和5年度 通常総会

令和5年度の通常総会が5月23日、ホテルポールスター札幌で開催された。

橋本智史会長の開会挨拶に続き、北海道農政部 技監 大西峰隆 様からご祝辞をいただいた後、議事に入った。

定款第16条により橋本会長が議長となり、議事録署名人は定款第20条2項に基づき、出席理事の中から長谷部友二理事、天満正博理事を指名し、議案の審議に入った。

まず、報告事項 ①令和5年度事業計画及び収入支出補正予算について、②技術者資格取得支援事業について、③会員の退会について、議案書に基づき事務局より詳細な説明があった。

第1号議案「令和4年度事業報告及び収入支出決算の承認について」事務局の説明、前谷俊幸監事からの監査報告があり、全員の賛成により承認された。

第2号議案「任期満了に伴う役員を選任について」後掲（P.14）の理事15名と監事3名が全員の賛成により承認され、総会は終了した。



## 寄稿

## 経営者視察研修報告

サン技術コンサルタント株式会社 代表取締役社長 島田 元樹

## 1. はじめに

令和5年7月4日から5日の一泊二日の日程で、(一社)北海道農業土木測量設計協会主催の経営者視察研修に参加させていただきました。今回の視察地は知床を含めたオホーツク地区という事で、網走に会社を構えている私にとってはいずれも目と鼻の先の距離でありましたが、近いがゆえになかなか訪問する機会がなく、改めてこのような機会を設けていただいた貴協会には感謝申し上げるところでございます。

特に知床に関しましては、小さいころに訪問した記憶があるくらいで、世界自然遺産登録後初訪問であり、大変期待を膨らませての参加になりました。

本報告では今回の視察研修について地元在住者としての雑感も交えながら報告させていただきます。

## 2. 視察1日目

本視察の集合場所は千歳空港と女満別空港の2箇所になっており、地元の私は、女満別空港の選択でした。集合時間よりかなり早めに到着したのですが、てっきり札幌から合流すると思っていた旭川の参加者の方達も来ていて軽くご挨拶。札幌組とも合流し総勢32名での研修となりました。初めに向かったのは大空町のほ場整備の現地視察です。

視察地①【中山間地域整備事業 東藻琴地区】

総事業費：2,263,293千円

工 期：平成26年～令和4年

工 種：区画整理 390.8ha

暗渠排水 55.6ha 客土 42.2ha

農用地保全 3,629.6ha

鹿柵 30,081m

オホーツク沿岸の農業の特徴は小麦、ばれいしょ、てん菜を主とする畑作地帯となっており、昨今の高齢化、人材不足の現状からスマート農



写真-1 視察状況



写真-2 切土法面



業を積極的に導入し生産性の効率化を図っています。地形は丘陵地が多く、火山灰質の軟弱地盤が多い地域となっていることから、農地造成時には降雨による農地への土砂流出、法面崩壊等に配慮した設計が必要とされています。特に本地区近隣にはサケ、マス、ワカサギ、シジミ等の良好な漁場となっているオホーツク海、網走湖等が位置しており、漁業関係者も神経質になっていることから、土砂流出対策には大変気を使って設計されたようです。

本視察地は農地の勾配修正を行い営農の効率化を図るものでありますが、強度が脆弱な盛土を極力避けることや、法面保護は火山灰土質に有効なすき取り物を法覆基材とした工法を採用するなど対策を行ったとの説明がありました。

1箇所目の視察地を後にし、東藻琴の道の駅で昼食をとりました。この道の駅は2017年に完成した比較的新しい施設で、通称「ノンキーランド」と呼ばれています。名前の由来はのんびりする「のん気」と心に鍵をかけないという意味の「ノン、キー (No, key)」をかけて付けられたようです。また、東藻琴村は2006年に女満別町と合併し最初の視察地である「大空町」となっています。しかしながら、私達地元民はなかなか大空町という呼び名に馴染めなく、今でも「東藻琴村」、「女満別町」と呼んでしまいます。

東藻琴と言えば芝桜公園が全国的に有名で春先には一面ピンクの芝桜で埋め尽くされ毎年観光客で賑わっていましたが、ここ数年は新型コロナウイルスの影響で客足が減っていました。今年はコロナも5類に移行したということで、私もプライベートで訪問しましたが、たまたま時期も最高だったこともあり見事に満開でその光景は圧巻でした。同時に観光客もコロナ以前よりも多いのではないかと感じるほどで、大変喜ばしく思えました。皆様も機会があればぜひ行っていただければと思います。



写真-3 芝桜公園(5月撮影)

2箇所目の視察地は、清里町に位置する緑ダムです。

視察地②【緑ダム 小水力発電施設】

総事業費：1,395,000千円

工期：平成29年～令和4年

発電方式：ダム式（従属発電）

使用水量：最大1.1m<sup>3</sup>/s

有効出力：最大499kw

年間可能発電電力量：2,500MWh以上

緑ダムは1974年から2003年にかけて清里町に建設された農業用ダムで、構造はロックフィル形式、堤高73m、堤長345m、総貯水量7,100/



写真-4 発電所外観



写真-5 発電所内部



kmを誇り、18,000haの農地に灌漑用水の供給を行っています。オホーツク管内に所在する5つの農業用ダムで最大規模のダムとなっています。

視察地の発電施設は、維持管理費節減と二酸化炭素排出削減を目的とした北海道では初となる灌漑用水を利用した小水力発電施設となっています。

年間可能発電電力量2,500MWhは、1世帯当たりの年間消費電力を約3.6MWhとして、約700世帯の電力に該当します。売電価格は年間1億2000万円で、そのうち4000万円が発電施設、8000万円が畑かん施設の維持管理費に活用されているとのことでした。

緑ダムに関しては、過去に弊社が管理業務を継続して受託していた時があり、当時私も担当者の交代要員として若干携わっていました。作業内容は数時間ごとの水位等のデータ収集と堤体の目視点検等でしたが、夜中の懐中電灯1本持ったの、管理用トンネル内の目視点検は気味の悪いものであったと記憶しています。発電施設視察後に緑ダム管理棟に足を運びましたが、管理棟に寝泊まりした時の事を思い出し感慨深いものがありました。

その後、バスは知床へ。途中、昨年発生した知床遊覧船事故の犠牲者に追悼の意を表すため献花台が設置されている斜里町役場へ赴き献花してまいりました。この事故は報道等から完全に人的ミスによる事故で、二度と起こしてはいけない事故であったと思います。

地元で起きた大事故であったため私にとっても大変ショッキングな事故で、網走の観光船もこの事故による影響で暫く営業できなかったと聞いております。犠牲者となられた方達に対し改めてご冥福をお祈り申し上げます。

知床での宿泊はオーシャンビューの「知床第一ホテル」でした。

皆様、旅の疲れを良質な温泉で癒し、オホーツクの美味しい食材に舌鼓をしながらお酒も進み大変有意義な懇親の会となりました。



写真-6 懇親会

### 3. 視察2日目

2日目はいよいよ知床視察です。私は若干昨晚のお酒が残っていましたが、さすがしい朝を迎えることができました。最初の行程は知床岬もしくはルシャ湾の2通りの航路のクルージングですが、朝からガスがかかっており、運航に影響するのではないかと不安がよぎりました。案の定出発時間の早い知床岬コースが欠航。ルシャ湾コースを選択した私もおそらくダメだと思いましたが、しばらくすると見事に天候が回復し、無事運航することができました。更には知床岬コースも次便



写真-7 カムイワッカの滝



が運航できるという事で、結果的に参加者全員の希望通りのコースのクルージングをすることができました。きっと皆さんの日頃の行いが良かったものだと思います。

### 視察地③【知床クルージング】

知床は2005年に開催された第29回ユネスコ世界遺産委員会において、世界自然遺産登録を取得しました。登録対象地域は知床半島とその沿岸海域となっており、日本国内で初めての海洋を含む自然遺産登録の地となったようです。登録に至る知床の評価は次にあげる2点だったようです。

①アザラシ等の海獣、サケ、マス等の多種多様な魚類が生息しており、それを餌とするヒグマやオオワシ等の肉食動物や鳥類も生息しており、世界の見本となる海洋生物と陸上生物の相互生態系が構築されている。(生態系)

②シマフクロウやシレットコスミレ、クマゲラ、ケイマフリ等の世界的に希少な絶滅危惧種の動植物が生息している。(生物多様性)

クルージングでは、カムイワッカの滝やフレペの滝等、長い年月をかけ造形された自然美を目の当たりにでき、大変感動的なものでした。

約2時間のクルージングを終え各自昼食をとり、知床五湖へ。

### 視察地④【知床五湖 高架木道】

知床五湖へはバスで約30分の移動でしたが、道中野生のヒグマと遭遇。しかも、3頭のヒグマを近距離で見ることができました。野生のヒグマはやはり動物園で見るとは違って野性味があり、車中からではありましたが、迫力がありました。ガイドさんの話では一日に3頭も遭遇するのは珍しいらしいです。

五湖に到着すると天候は午前中とはガラッと変わり快晴で暑いくらいの最高の散策日和となっており、ネイチャーガイドさんの引率で一湖までの片道800mの高架木道の散策の始まりです。

この高架木道は2010年に完工されておりますが、工事にあたっては材料をヘリコプターで近隣まで運び、そこからは全て人力で運搬するなど、厳しい立ち入り制限がある中での工事だったため、800mの木道工事に3年かかったようです。また、今回視察に参加された益村測量設計株式会社の佐々木様がこの木道設計に携わっており、補足として説明をしていただきました。設計においてもやはり色々な制約がありルート選定、勾配設定等、大変ご苦



写真-8 高架木道



写真-9  
天に続く道(4月撮影)



写真-10  
喫茶店(4月撮影)



労されたようです。

全ての行程を終え、知床から観光スポットの天に続く道を経由し女満別空港へ。

天に続く道は、長い一本道がまるで天に向かって伸びているかのような北海道らしい景観を楽しめる場所で、近くには視察時はたまたま定休日でしたが美味しいハンバーガーを食せる喫茶店もありますので、機会があればぜひお試ししていただきたいと思います。

#### 4. おわりに

この度の視察研修では、地元に住しながら、なかなか足を運ぶ機会がなかった知床を訪問でき私にとっては大変貴重な体験となりました。手つかずの自然が生み出した素晴らしい景観や、貴重な動植物が生息できる環境は、未来の子供達のためにも、維持し守っていく事が重要だと改めて感じました。

同時に昨今、異常気象による災害が多く発生していますが、災害発生時には一刻も早く復旧、復興ができるよう、我々の業界においても日々研鑽し技術力向上に努めることが必要不可欠だと再認識することができました。

また、今回は約4年ぶりに新型コロナによる行動制限がなくなった中での視察研修で、一泊二日の短い時間ではありましたが、フェイストゥーフェイスによる皆様との情報交換はリモートとは違い肌で感じるものもあり、大変有意義な時間を過ごすことができました。

改めて本視察の準備にご尽力された農土測協の皆様、説明を引き受けていただいたオホーツク総合振興局の皆様、そして視察に参加された皆様に感謝を申し上げ本報告を終えることといたします。



写真-11 緑ダムにて



## 研修会

# 令和4年度 農業土木技術者研修会

令和4年度最後の研修会を3月22日にWEBで開催いたしました。

49社145名の参加をいただき、協会会員の益村測量設計の森調査部長、農政部農村計画課西野課長補佐に講師をお願いし、下記研修項目で実施いたしました。

### ①草地整備事業における UAV 活用事例

講師：益村測量設計（株）森 隆幸調査部長

～ UAV測量の作業効率、迅速性などのこれまでの活用例を紹介、牧草地に対するデータ取得のメリット、デメリットや今後の活用方法並びに課題について説明いただきました。



### ②ターン農道や自動給水栓の効果調査事例について

講師：農政部農村計画課 西野敏朗課長補佐

～北海道の水田地帯の現状と課題を説明、ICTを活用した営農技術の例を紹介するとともに、これら農機導入による営農効果（大区画化のメリット）や水管理システム導入による水管理省力化の効果検証について説明いただきました。



※講師を引き受けていただいたお二人に感謝申し上げます。

※研修資料は協会HPの「研修会参加者」より閲覧可能です。





## 北日本測地株式会社

代表取締役 田中 義則

### はじめに

この度は農土測協時報で紹介の機会を頂き、誠に有難うございます。令和3年4月に北日本測地株式会社の代表取締役に就任しました田中義則と申します。新型コロナウイルスの行動制限時に社長に就任し、皆様にご挨拶する機会を持てなかったことをお詫び申し上げ、この場をお借りして会社紹介、自己紹介をさせていただきます。

### 会社紹介

弊社は昭和37年4月に札幌市中央区に創業し、皆様のご支援、ご指導のもと昨年60周年を迎えることが出来ました。創業当時より道内約23市町村の地籍調査事業に従事し、昭和42年からは、北海道農政部発注に係る換地確定測量並びに用地測量に携わり、地籍調査や確定測量業務で培った技術力や豊富な経験を生かし、社会インフラの整備や農業農村の振興に微力ではありますが、関与させていただいております。また、平成21年度に換地推進室を創設し、道内各市町村・土地改良区の換地に係る計画作りから処分までの業務について支援させて頂いており、道内農業地域の農用地の集団化にも積極的に関与しているところです。

### 自己紹介

私は昭和45年3月3日に札幌市白石区で生まれ、現在53歳になります。平成元年3月に道都総合専門学校 測量課を卒業し市内測量会社に就職し測量への一歩を踏み出しました。平成7年に4代目社長のお誘いを受け、弊社に入社し用地測量、確定測量及び地籍調査等の業務に従事してきました。社長就任後は、歴代社長が築き上げてきた経営理念を継承しつつ、当業界を取り巻く諸課題（人材不足・働き方改革等）への対応及び弊社としてのソフトランディングに日々頭を悩ましながら、社長業を邁進しております。

### 終わりに

まだまだ未熟ですが、貴協会の一員として、地域社会や農業農村の振興・発展に微力ではありますが、貢献していく所存です。今後とも貴協会並びに会員の皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。



# 明和測量工業株式会社

代表取締役 都松 佳美

## はじめに

令和3年5月に代表取締役に就任し、今年で丸2年を迎えました都松佳美と申します。

日頃より、北海道農業土木測量設計協会の皆様には、協会の活動運営にご尽力いただき御礼申し上げます。又この度は、農土測協時報にて寄稿文の機会をいただきありがとうございます。

## 会社紹介

昭和37年に亡父、都松明が創業し翌年の昭和38年5月に、会社組織としてスタートしました。

おかげさまで今年、設立60周年を迎えることができました。

測量業が主でしたが、昭和63年に補償コンサルタント業の登録を機に、農業農村整備事業の割合が多くなり、昨年度は受注額の7割以上を占めるようになりました。

主に公共では路線測量、用地測量、確定測量（換地業務）、補償業務（事業損失、物件調査）その他、民間では個人や企業さまから依頼を受けています。

## 自己紹介

私は創業者である両親の間に次女として岩見沢市で生まれ、代表取締役として4代目になります。

地元の高校卒業後は札幌の短大に進学し、卒業後の10数年は事務職や建築設計補助、派遣社員でCADオペレーターなどを経て社会経験を積んできました。

30代中頃から、弊社に入社し補償業務に関わりましたが、色々な面で壁にぶつかり、環境を変えてみたくなり沖縄へ移住しました。建築設計事務所で6年間、主に補償業務の仕事をしていました。

休日には離島でスキューバダイビングや、初めてマラソンに参加したり充実した日々を送ることができました。その後親の介護を機に帰省し、弊社に復帰いたしました。

両親は既に他界しましたが、最後まで看取れることができたことは、私にとって人生悔いなくかけがえのない経験であったと思います。

代表に就任してから様々な機会で、両親の足跡を知ることとなり、エピソードを見聞きしながら、私の知らなかった彼らの一面を発見することがあり、両親は元より、業界に携わる先輩方々皆さまの苦勞を、身に染みて実感しているところであり、改めて代表という立場に身の引き締まる思いであります。来年、私は辰年で還暦を迎えます。回り道を沢山して、いろいろな方たちにはご迷惑をかけ、たくさん助けていただきました。

出会いに感謝し、会社と職員と共に成長し続けたいと思っております。

## 終わりに

世界情勢の不安定な状況下、日本は先進国で最低水準と言われる食料自給率の向上を目指すべく、様々な問題を解決し、弊社はその一翼を担う一員として、農業農村整備事業に貢献していく所存であります。北海道の農業が日本の明るい未来をもたらす礎となるために、日々技術の研鑽と継承に努めて参りたいと思っております。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。



## 株式会社十勝測量設計社

代表取締役 宮下 義朗

### はじめに

株式会社十勝測量設計社の宮下義朗と申します。令和3年4月に代表取締役に就任いたしました。橋本会長をはじめ協会員の皆様には日頃より大変お世話になっております。

新型コロナの影響で皆様にご挨拶する機会がなく今日まで来てしまいましたが今回このような機会をいただきましたことに感謝申し上げ、この場をお借りして自己紹介・会社紹介をさせていただきます。

### 自己紹介

私は十勝音更町の出身で現在60歳になります。地元の高校卒業後、江別野幌にあった北海道測量専門学校の測量工学科を卒業し、昭和58年4月に帯広市内の建設コンサルタントに入社しました。

令和3年1月、縁がありまして十勝測量設計社に入社し、現在に至っております。前職で入社後測量に5年ほど従事したのち設計に従事し、20～30代は道路・農業土木、40代以降は主に河川、公園に携わり、平成21年から退職する令和3年までは取締役を経験させていただきました。様々な部門や職責を経験させていただいたことは自身にとって大きな糧となっていると感じています。

私事としては、現在登山に緩くはまっており、日帰りできる山を年に5～6回登っています。6月中旬、ウォーミングアップで管内の標高1000m程度の登山に始まり、7月登山は、登頂までは暑くてバテますが、頂上付近はさすがに涼しく、下界のうだる暑さを一時忘れさせてくれます。9月下旬紅葉が見ごろを迎える大雪山で登り納め。

きっかけは、6年前に紅葉時期にのぼった銀仙の真っ赤なナナカマドの葉と常緑樹の緑のコントラストに魅了されてからです。

最近、肩と膝の痛みが出てきてシップが手放せなくなってきましたが、うまく付き合いながら続けていきたいと思っています。

### 会社紹介

弊社は昭和40年5月に設立し今年で59年目を迎えました。設立当初から本別町及び近隣町村を中心として、地域経済の発展と安全な暮らしを下支えするインフラ整備の調査設計に携わってまいりました。

諸先輩たちが迅速丁寧で小回りの利いたサービスを提供し続けてきたことで地域から信頼を得てきました。この信頼をさらに高めていくため、新技術を積極的に活用しながら地域の課題解決に向けて取り組んでいるところです。

エンゼルス大谷選手が試合への心構えについて、『試合は準備してきたことを試す場、しっかりと準備があってこそ試合を楽しめる』というようなことを言っていました。労働時間を短くしながらより高品質な成果物を提供できるように、準備を怠らないよう努めてまいります。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



## 「資格取得から現在の仕事について」

菊地技術コンサルタント株式会社 白木 慎也

私は現在の会社に令和2年4月に入社をして、測量の技術や知識がないまま1年間仕事を行っていました。一年間経った後、さらに測量技術者として続けていくには測量士または測量士補の資格が必要であり、これまでよりも深く測量の知識を学びたいと思い、測量の技術や基礎となる知識が学べるという部分が魅力的と感じ企業委託生として令和3年度に札幌工科専門学校の測量情報科に入学しました。クラスには10代から30代までと幅広い年齢層で、班としての作業を行っていました、その中で他クラスとの合同実習も行い測量以外の話も聞くことができたので、とても強く記憶に残っています。

入学後は自己紹介を行ったりした後、新型コロナウイルスの影響で休校になってしまい、授業に関してはオンライン授業や分散登校になってしまいました。その中でも自分にできる学習などを行っていました、コロナウイルスが少し落ち着いてからは対面授業になりましたが3密、換気を徹底して授業を行っていました。

実習に関してはGNSS測量や山地での地形測量、モエレ沼公園での水準測量、学校周辺での電子平板を用いた地形測量を行い実際に会社で行っていた作業を基本から深く学び直すことが出来て有意義な時間を過ごすことが出来ました。他には旭川に行き伊能忠敬や川村カ子トをはじめに測量に関する偉人たちについて学んだり、札幌市内での電子基準点を見たり山に登って一等三角点を見に行ったりなど様々な見学なども行いました。

そして、12月に行った測量士補試験では、各先生方からの教えや授業の中で過去問を何度も繰り返し解いたり、クラスメイトと一緒に問題に向き合い教えあったりして本番では無事に測量士補試験に合格することができました。

学校を卒業し、会社に戻ってきた後は学校の知識を活用しつつも会社の上司の方たちに未熟な部分も教えてもらいながら一生懸命に仕事を行っています。これからも仕事の責任感や業務の大切さを感じながら仕事に向き合っていこうと思います。

最後に、今回通学の機会をいただいた農土測協の皆様をはじめ迷惑をかけながらも学校に通わせていただいた会社の皆様や札幌工科専門学校の先生、周りの皆様におかれましても様々な場面でサポートをしていただきありがとうございました。この場を通じて感謝申し上げます。



## 協会行事予定

令和5年度		
8月	8月8日(火)	第3回 理事会
9月	9月30日(土)	農業農村整備パネル展(道庁赤れんが庁舎前)
10月	10月中旬	中間監査
	10月30日(月)	創立50周年記念行事[講演会・式典・祝賀会] (札幌ガーデンパレス)
1月	1月17日(水)	第4回 理事会(ポールスター札幌)
	1月中旬～	各地域懇談会
2月	2月中旬	第2回 業務推進委員会

## 会員の人事動静

- ・(株)ムラコシ  
令和5年3月 代表取締役社長 古谷 重雄  
畑田 仁志
- ・(株)郡土木コンサルタント  
令和5年3月 取締役 郡 富士男  
代表取締役 山田 康介
- ・藤井測量設計(株)  
令和5年4月 取締役副社長 阿部 孝  
代表取締役 菊田 寛
- ・(株)津村測量設計  
令和5年4月 取締役会長 日下 雪夫  
代表取締役 及川 登
- ・(株)東亜エンジニアリング  
令和5年4月 代表取締役会長 山川 昇  
代表取締役社長 若井 衛
- ・(株)ヒロノ測建  
令和5年5月 代表取締役会長 丹羽 英雄  
代表取締役社長 浅野 遵
- ・(株)中央エンジニア  
令和5年6月 代表取締役会長 上垣香世子  
代表取締役社長 上垣 直裕
- ・(株)アサヒ建設コンサルタント  
令和5年7月 代表取締役会長 竹林 恭介  
代表取締役社長 櫻庭 満

## 退 会

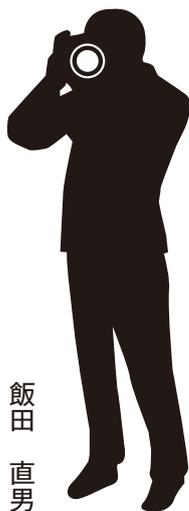
- ・(株)地域開発エンジニアリング  
令和5年4月

## 新 役 員

- 会 長 橋本 智史
- 副会長 熊頭 勇造 (北王コンサルタント(株))
- ” 原 正行 (株みずほ栄設計)
- ” 吉田 浩幸  
(株よしだ設計コンサルタント)
- 理 事 越野 寿一  
(内外エンジニアリング北海道(株)) **新任**
- ” 長谷部友二  
(株北海道農業建設コンサルタント)
- ” 天満 正博 (道南測量設計(株))
- ” 山口 武宏 (株山口技研コンサルタント)
- ” 福田今日児 (新和測量(株))
- ” 佐藤 直志 (北海道調査補償(株))
- ” 竹林 恭介  
(株アサヒ建設コンサルタント)
- ” 山崎 俊彦 (やまざきコンサルタント(株))
- ” 益村夏菜子 (益村測量設計(株)) **新任**
- ” 高瀬 裕之 (平田技術コンサルタント(株))
- ” 橋 俊之 (東邦コンサルタント(株))
- 監 事 前谷 俊幸 (アルスマエヤ(株))
- ” 田中 雅人 (東和工研(株))
- ” 細川 勉 (税理士)



# 撮影秘話



飯田直男

今回は、「カササギ」と言う鳥をご紹介します。

10年ほど前に、写真仲間から、「苫小牧近辺に珍しい鳥がいる」との話を聞き、雪解けのころに探しに行ったことがあります。

その後、3年ほど前にも、写真仲間から、「千歳方面でも見かけたことがある」との話を聞いた年の冬に、私が住む恵庭市内の公園でも、散歩をしていると、ナナカマドの実をついばんでいる姿を目にするようになりました。

体の大きさは、カラスより少しばかり小さいくらいですが、お腹が白くて尾が長いのが特徴で、鳴き声は、「ギャー・ギャー……」と、なんとも耳障りな鳴き

声で、いつも6~8羽ほどの群れで行動しています。

ご紹介した写真は、4月中旬に我が家の向かいの空き地に飛来した時に、窓から撮影したもので、虫などを探しているようで、しきりに枯葉をひっくり返していました。

本来、「冬には北海道に渡っては来ない」と思われていたようですが、近年の温暖化の影響で、道南方面や太平洋側でも越冬できる環境になってきているのでしょうかね。

今後も暖冬の傾向がみられることから、越冬する環境がますます広がり、見かけることが多くなりそうです。

## 農土測協時報

令和5年8月版

一般社団法人 北海道農業土木測量設計協会

〒060-0002

札幌市中央区北2条西3丁目1-21 札幌北2条ビル5階

発行

TEL : 011-205-5310 FAX : 011-222-3277

E-mail ndsk@sage.ocn.ne.jp

ホームページ <http://hokkaido-ndsk.or.jp/>

印刷

東洋株式会社